



高知県立
文学館

高知県立文学館ニユース

藤並の森

Vol. 50



▲四国遍路を願っていた勇とともに旅し、酒を交わした友人・伊野部宅（高知市）に建立された歌碑
「瀧嵐子 つと入りきたりものをいふ その門口の うつ木おもほゆ」

リレー随筆

吉井勇と四国遍路

めんどりすえお
妻鳥 季男

『老いたる夫婦づれなどはもとよりのこと、十七八の若い娘が四五人連れ立つて（略）これが巡禮かと思はれるやうな色つぼさ、轉るやうにしゃべり合ひながらやつて來るのに幾組出會つたか分らなかつた。

その時も私達は二度かういふ春の季節、菜の花が咲いたり蝶が飛んだりしてゐる時分に、四国遍路をやつて見ようぢやないか」といひ合つたものだが、結局それはただ一種の遊山気分から出た言葉なのだった。』

（吉井勇随筆「四国遍路」抄）

四國路へわたると云へばいらはやく
遍路どころとなりけるかも

この秋は四國遍路のころぞし
果さめと思ひ山こもり居り

この随筆に書かれているのは、昭和五年四月、文芸講演ではじめて四国の宇和島へ来られ、帰途松山で見かけた情景を書かれたものであるが、現在の様に交通機関が発達していなかった時代の話である。

ここで吉井先生は「四国遍路」とは言っているが、これはおそらく七箇所詣りの巡拝者のように思える。そうしてこの光景は、風物詩として眺められたのではないかと思う。先生は高野山へはしばしば登り、宿坊で一か月位滞留することが多かった様であるが、そこで「弘法大師傳」と「三教指帰」を借覧して、弘法大師の力の如何に偉大であるかということ深く感じられたという。

すぎるべきものなしわれは空海の
おん足あとをいたに辿らむ

空海をたのみまぬらす心もて
はるばる土佐の國へ來にけり

（吉井勇研究者）

吉井勇没後五十年展

く吉井勇と四国路・新資料とともにくへの誘い



観覧料500円



▲吉井勇著『東京紅燈集』
装画 竹久夢二

吉井勇と土佐

吉井勇は、一八八六（明治十九）年、伯爵吉井幸藏の嗣子として東京に生まれました。一九〇五（明治三八）年には、与謝野鉄幹・晶子らが中心となっていた新詩社に入り、一九一〇（明治四三）年、二五歳で、処女歌集『酒ほがひ』を上梓し、以後、耽美派歌人としての地歩を確立してゆきます。同時代には、石川啄木、北原白秋、若山牧水、島木赤彦、柳原白蓮、佐佐木信綱、金子薫園、土岐哀果といった多くの歌人が活躍して来ました。

勇は、生涯において、詩、戯曲、随筆、小説、紀行と多岐にわたり数多くの作品を残しています。特に、歌人としての活躍はめざましく、土佐関連の約千首を含む、一万七千首を超える短歌を詠んでいます。その勇が、初めて土佐を訪ねたのは、一九

三（昭和六年のことでした。一九三四（昭和九年）には、香美郡在所村猪野々（現香美市香北町猪野々）に隠棲しています。

後に彼は、高知の友人の取り壊すと云う古家を貰ひ受けて、直ぐこの鉱泉宿の下の崖縁のところに、いともささやかな草廬を建てて、炉端の酒を楽しむに、その日その日を送るやうな、侘住みの身となつてしまつた。…それからここに住んでゐた数年の間私は、その月日の半ば以上を、多くは旅ばかり過ごしてゐたので、長い旅から帰つて来て、歌行脚に疲れた体をこの炉辺に横たへた時位、わが身の安けさを覺えたことはなかつたのだつた。乗合自動車を下りてから、自分で手繰る渡舟をわたつて、懐かしい草廬に歸り着くまで、道で往き会ふ人達や店先にゐる人達がみんな口を揃へたやうに『おかへんなさい』と云つて、迎へてくれるのもうれしかった。」と『溪鬼荘を思う』に書いています。

当時、爵位の停止、妻徳子との離婚と中央での生活に疲れ、全国を歌行脚していた傷心

の勇を、真に支え、再び中央に送り出したのは、土佐の風土と人情だったのかもしれない。一九三七（昭和十二）年十月、戦地へ出征した友人の後を追いかけるかのように、山里を離れ、高知市築屋敷の鏡川河畔に居住まいを構える勇の姿がありました。その側には、孝子夫人が静かに寄り添っていました。

そして、一年後には、京都を拠点とした活発な活動が見られます。その作風は当時の文壇歌壇の俗流を厭離した独自のものでありました。晩年の作品には、孤高に生きようとする勇の姿が示されています。

展示構成

第一部の「吉井勇 人と文学」では、誕生から七五才で生涯を終えるまでの勇の業績を著書や原稿や写真などの資料を



展覧会 紹介

吉井勇没後五十年展 吉井勇と四国路・新資料とともにへの誘い



平成22年
9月23日(木・祝)

11月7日(日)
常設展示室
特設コーナー

観覧料500円

☆展示解説

展覧会担当学芸員による展示解説を行います。

毎週土曜日と、

9月23日(木・祝)、
11月7日(日)

各日とも午後1時半～
(約30分)

参加には当日観覧券
が必要です。

通してご紹介いたします。また、多くの文人達との交流もご紹介いたします。

第二部の「吉井勇と旅」では、これまで紹介されることの無かった、四国特に土佐における吉井勇の足跡を中河与一・尾崎士郎・大鹿卓(金子光晴弟)・大澤輝彦・今戸益喜といった人々との交流を示す初公開の書簡などを通して顕彰します。また、四国の友人達との交流をご紹介します。

第三部の「吉井勇と四国遍路」では、南州市土佐国分寺所蔵の貴重な資料を中心に展示し、勇にとつての遍路とは、どのような意味をなすのか、を顕彰します。

第四部「吉井勇と坂本龍馬」では坂本龍馬との知られざる関係を小説「或る日の龍馬」など勇の作品を通してご紹介いたします。そして、土佐での隠棲が後の勇の作品にどのような影響を与えたか顕彰したいと思います。

多くの皆様のご来館をお待ち致しております。

(学芸課/津田加須子)



▲吉井勇の署名がみられる焼け残った「溪鬼荘」宿帳
(所蔵/今戸道子氏)

○会期：平成22年9月23日(木)～11月7日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
会期中無休

○観覧料：500円(常設展含む)

高校生以下無料 20名以上の団体は2割引

身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳
および被爆者手帳をお持ちの方とその介護者(1名)、
高知県および高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。

○主な出展資料

吉井勇書簡(新資料)、掛軸、色紙、
短冊、原稿、愛蔵品、吉井友実書簡、
木像楽師如来立像など二百点

◆関連企画のご案内◆

■吉井勇没後50年 高知県短歌大会・記念講演会

本展を記念して、短歌大会を開催します。伊藤一彦氏(歌人・牧水記念館 館長)による記念講演会もあります。(講演会のための聴講も可能です。)

日 時：平成22年10月3日(日)午後1時30分～午後4時30分 参加料：無料
(※記念講演会は午後3時30分～午後4時30分)

場 所：高知県立文学館1F ホール

内 容：短歌大会、表彰式、記念講演会

選 者：伊藤一彦、楠瀬兵五郎、今井嘉彦、植田馨、中野百世、西岡瑠璃子、平田雅

■鼎談～吉井勇を偲んで～

吉井勇と妻鳥季男さんとの対談を記録した懐かしいテープや、勇の作詞したレコードなどを聞きながら吉井勇を顕彰します。

日 時：平成22年10月10日(日)午後2時～午後3時30分 参加料：無料

場 所：高知県立文学館1F ホール 定 員：100名(要電話申込)

出演者：妻鳥季男(吉井勇研究者)、林廣裕(土佐国分寺長老)

■文学散歩 ①「吉井勇と伊予路」、②「吉井勇と土佐路」

高知県立文学館が企画する文学散歩です。(有料、①②とも日帰り)

①「吉井勇と伊予路」

伯方島、大三島といった伊予路を中心に吉井勇ゆかりの地と歌碑を訪ね、勇が宿泊した光藤旅館での新鮮な魚介類満喫の昼食、内海クルーズなどお楽しみいただきます。

日 時：平成22年10月30日(土)

②「吉井勇と土佐路」(2回開催) 日 時：平成22年10月8日(金)、17日(日)

吉井勇の県内の歌碑と吉井勇記念館などを訪ねます。

※①②とも日時、料金などの詳細は文学館までお問い合わせください。

その他、朗読の会、文学カレッジなどを催します。詳細は文学館までお問い合わせください。

日本語版出版40周年記念

永遠のともだち、ピーターラビット®展

夏休み期間に好評開催！ 見どころや関連企画をお伝えします。



▲マグレガーさんの畑をイメージしたコーナーでは、実際に野菜を引き抜くことができます。

今回の展覧会は、世界中で愛されている『ピーターラビットのおはなし™』の日本語版出版40周年を来年に控えて、高知県立文学館が独自に企画した展覧会です。会場には『ピーターラビットのおはなし™』に登場するマグレガーさんの畑をイメージした菜園が再現され、子どもたちに大人気のコーナーとなっています。また、大東文化大学と東京子ども図書館にご協力をいただき、一九〇二(明治三五)年に作者ビアトリクス・ポター™が自費出版した『ピーターラビットのおはなし』の私家本や、彼女の

作品を的確な文章に翻訳し、日本の子どもたちに紹介した石井桃子さん自筆の東見本など、高知ではなかなか目にすることの出来ない貴重な資料がパネルを含めて約九十点展示されています。

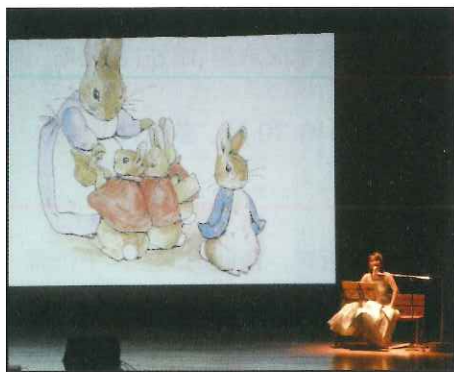
展覧会初日の七月九日(金)はあいにくの雨模様でしたが、テープカットのほか地元のアート幼稚園のみなさんによるピーターラビットの歌の合唱や、高知県の大川村に新しく出来る「ピーターラビットの里」の調印式などが執り行われ、華やかなオープニングとなりました。

また、七月十八日(日)には本展覧会の監修者でもある大東文化大学文学部・英米文学科の河野芳英教授を講師に迎え、記念講演会を開催し、ピーターラビットの奥深い世界を多彩な映像資料で分かりやすく講演していただきました。

さらに、ビアトリクス・ポターの誕生日である七月二十八日(水)には、ピーターラビットの読み聞かせ大使であり、親子に大人気のシンガー・井上あずみさんを迎えて、RKCホールで楽しいコンサートを開催しました。



© F.W & Co., 10



▲井上あずみさんのコンサートでは、『ピーターラビットのおはなし™』の読み聞かせもありました。

展覧会とともに、どの関連イベントもお客様に好評で、「ピーターラビット作品の魅力が再発見することができた」「とても楽しく、素晴らしい時間を過ごすことができた」などの嬉しいお声をたくさんいただいています。

展覧会は九月十二日(日)まで開催しております。この機会に、絵本を通じて「人間と自然と動物との共存」のメッセージを広げていったビアトリクス・ポターの業績と、石井桃子さんの文学活動の足跡にふれてみませんか？ みなさまのお越しをお待ちしております。(学芸課/福富陽子)

関連企画のご案内

◆ハッピーバースデー・ディア・ピーター！

開催日：9月4日(土) 午前9時から 場所：文学館1階受付にて

内容：9月4日はピーターラビットのバースデー!! この特別な日を記念して、**ご観覧の方先着 100 名様にオリジナル・ポストカードをプレゼント!!**

◆ありがとう、ピーター!! クイズラリーイベントを追加開催!

開催日：9月11日(土)、12日(日) 終日開催 場所：文学館2階受付にて

内容：最後まで展覧会を楽しめる、素敵なクイズラリーを追加開催します! 会場に設置されたポイントをめくってクイズを解きましょう!

正解者には、素敵なグッズをプレゼントします!

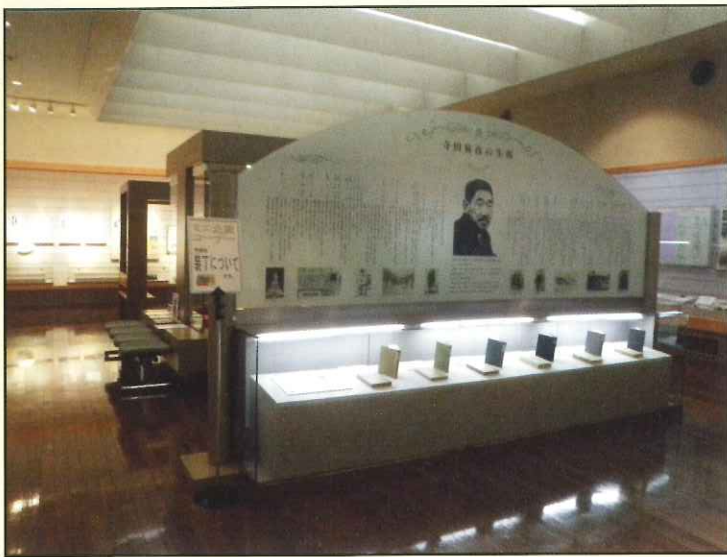
追加
開催!!7月9日(金)から、
9月12日(日)まで開催!

寺田寅彦記念室を展示替えしました！

このたび、寺田寅彦記念室の展示替えを行い、七月九日からみなさんにお披露目となりました。そこで、新しい寺田寅彦記念室の魅力を紹介します。

今回の展示替えの注目点は、こちら！

- ☆資料を全体的に入れ替え、寅彦の魅力を新しい資料で紹介しています。
- ☆キャプションの文字を大きくし、見やすく示しています。
- ☆子ども向けの解説シートをつくりました。
- ☆ミニ企画コーナー、ミニ実験コーナーを新たに設けました。



それぞれのコーナーごとの見どころは、こちら！

◆寺田家の人々

寺田寅彦が愛用した帽子や、長女・貞子が結婚するときに贈った可愛らしい薬箱を展示しています。

◆文学者 寅彦

漱石が寅彦に送った書簡や年賀状の実物を展示しました！また、晩年の寅彦が熱中した連句について、そのルールや、映画のモニター・ジュ理論との関連について詳しく解説しています。

◆科学者 寅彦

ノーベル賞をタッチの差で逃したと言われる、X線によるラウエ斑点の撮影について、ミニパネルで詳しく説明しています。また、今回は椿の落花の実験を特集しています。

◆寅彦が描いた絵画

臨画から写生、水彩から油彩へという寅彦の絵の作風の変化がたどれます。また、寅彦が「物理の本よりも多い」と冗談交じりに言った、寅彦所蔵の画集も紹介しています。

◆寺田寅彦ゆかりの人々

宇田道隆や中谷宇吉郎の書簡、野上弥生子の献辞本などを紹介しています。

◆寅彦が愛した音楽

レコード盤やチェロの教則本を新たに展示しました。

◆ミニ企画コーナー

今回は、寅彦が凝りに凝った、単行本の装丁のご紹介です。このコーナーはしばしば展示替える予定ですので、今後要注目！



●寺田寅彦記念室を含め、他にも「宮尾登美子の世界」のコーナーや、朝日新聞で2ページにわたり紹介された歌人・北見志保子のコーナーなど、常設展示は魅力的なものへと常に変化しています。あわせて、ぜひご覧ください！

(学芸課／永橋禎子)

館長室から

「夏休みの季節に思う」

元吉 喜志男

夏休み期間中の文学館は、何時も以上に若い人達との接点が多くなる季節でもあります。

ここ数年、夏の企画展は子どもや若い人達を中心に家族連れで愉しんでいただけの内容の展示を意識しています。加えて、関連イベントなどにもこうした配慮が加えられています。必然、館を訪れるお客さまもそうした世代層の方が多くなります。

また、夏休みには小学校の放課後児童クラブなどを中心に「おはなしキャラバン」の出前の人気が増加し、担当者やカルチャーサポーターさんは連日過密スケジュールの中で活動しています。

企業実習や博物館実習で高校生や大学生を受け入れ、館のスタッフと一緒に体験をしていただくのもこの季節です。

この他、夏には朗読を通して文学に親しむ子どもたちを育てたいという願いから、今年で十三年目を迎えた「児童生徒文学作品朗読コンクール」の地区審査があります。県下を東部・中央・西部の三ブロックに分けて地区審査を行い、ここで選出された児童生徒が一堂に会し、秋に県審査を行います。県下全域を対象としたこうした朗読コンクールは全国的にも例がないと聞いています。児童生徒の真剣な表情は、聴く側に素晴らしい感動を与えてくれるとともに、朗読が子どもたちの豊かな情感や表現力を育む上で大切なことを再認識させてくれます。また、子どもたちの真摯な表情の背景に学校の方針やご指導されている先生の情熱なども垣間見られます。

夏休みの季節は、県立の文学館にとって若い人達も含め世代を超えて愛されお役に立てる活動や館づくりを考えるうえ貴重な季節でもあるのです。

紀貫之の船出 ― 国分川から浦戸へ ―

猪野 睦

異状集中豪雨で国分川堤防が決潰。一夜で大津、布師田、一宮、高須一帯が水浸しになったのは十年ほど前だった。大津バイパス、土讃線鉄道も、むろん水面下に沈んだ。周辺家屋も二階が水上に浮かび、そのひろがる海面状のかなたに高知市が見えた。

そのとき見た光景は、これが紀貫之が船出したときの地形であろうという思いだった。千年あまりかけて海面は隆起、その後潮水を止め、この地帯の耕地化も始まり、人も住むようになっていくが、それが大津、布師田、一宮、高須一帯だった。

むろん潮の満干のたび潮水に悩まされながらの耕地化であり、条件の悪い湿田での田植、稲刈には、田舟利用が戦後もしばらく続いていた。

◀ 水量をたたえた現在の国分川



この田地にしみこむ潮水をうまく利用する徳谷トマトは全国ブランドとなった。塩分がひきしめる実は大きくならず特有の甘味をだした。

この浸水時に見た大津あたりからの光景は、一帯が一、二メートルほど水没、高知市方面へむけての眺めは、サンピアのビルが浮かんで見え、水面には田辺島、高須、葛島の森の小山が島になって見えた。こういう海上を紀貫之は船を漕ぎ出し右手に田辺島、左手に高須、葛島、遠くには比島、愛宕、小津の小山を見、島をぬつて冬の西陽を見ながら浦戸へ向かったのではないかという感慨にうたれた。

十二月二十七日。大津より浦戸をさして漕ぎ出づにつづけて「鹿児島の崎といふところに、守のはらから、又こと人、これかれ酒なにどもて追ひ来て、磯におりゐて、別れ難ことをいふ。」そして「潮満ちぬ。風も吹きぬべし」と騒げば、舟に乗りなんとすと「土佐日記」にはでてくるが、満ちてくる潮にのつて船がひろがる湾内へすべっていく光景が浮かんでくる。

先日、国分の館跡をたずねた。田んぼ道を東へゆくと国分川へでる。かなりの水量が流れていたが水系利用当時、国分川は唯一の交通手段だった。そこから小舟に乗って下ると南に大津の長くのびた山がみえる。その麓の大津、鹿児は当時、都につながる外港だった。

水量をたたえた国分川堤防を車で走りながら海水は当時、どのあたりまでできていたのかと思ったりした。

(詩人)

資料受贈報告

― 最近の寄贈資料から ―

『松谷みよ子おはなし集』全五巻

著・松谷みよ子
絵・和歌山静子(一巻)、石井勉(二巻)、
宮本忠夫(三巻)、石倉欣二(四巻)、
梅田俊作(五巻) ポプラ社刊
二〇一〇年三月 A5版変形



松谷みよ子さんは、『龍の子太郎』や『モモちゃん』とアカネちゃんシリーズなどでおなじみの児童文学作家です。一九二六(大正十五)年に東京で生まれ、一九四三(昭和十八)年に童話を書き始めました。終戦間際に長野県に疎開、その後、一九四八(昭和二三)年に坪田譲治に師事します。また、木下順二の『夕鶴』に出会い、さらにその民話論に感動し、民話にも興味を持つようになります。

『松谷みよ子おはなし集』は、五つの巻によって構成されています。それぞれ、ちいさいこどもを書いたお話、動物たちのお話、初期作品、民話を元に作ったお話、民話の再話が収めら

受贈報告(平成三二年五月〜七月) 敬称略

▼高知ベンクラフ・高知文芸年鑑(二〇一〇年版(三三号))
▼土佐山内家宝物資料館・山内家史料 幕末維新編 歴代公紀 全十八巻(他) ▼絵金蔵・絵金蔵収蔵品目録
▼横田晴光・父の酒 安岡章太郎著 文藝春秋刊(他)
▼松谷みよ子民話研究室・松谷みよ子おはなし集 全五巻 ポプラ社刊 ▼久保田和子・熾の会 高知合同歌集 全十巻 風心社刊 ▼高石敏夫・小説本山一揆 高石左馬之助復活 高石敏夫著刊 ▼壺発行所・閑心 遠目 壺発行所編刊(他) ▼山本善正・鈴木源太郎への 博楽漢詩集 山本善正編刊 ▼三里史談会・村のこと(も)復刻版(三) 三里尋常高等小学校編刊 ▼ももたろう 企画・紙芝居絵本 龍馬ものがたり 全三巻 楠本剛作・絵 ももたろう企画刊 ▼市原春美・ブルツとふるえる! こわい日本の民話 全六巻 教育画劇刊(他)
▼早野朝子・わが十代の記録「三十八度線を越えて」全六八枚 早野朝子文・画 ▼澤 英彦・歌集 麥の穂 澤 英彦著 南天発行所刊(他) ▼岡崎功・岡崎静香・「詩集 ミノトルの指環 岡崎功著 MESSクラブリ」(他)

れ、松谷さんの広範な仕事が見渡せるようなつくりになっています。松谷さんの師、坪田譲治は、「人生をお書きなさい」といつも言っていたそうです。ここに収められた松谷さんの作品には、どれも人生を慈しむまなざしを感じることが出来ます。

実は、松谷さんは、父祖の地が高知であるというゆかりをお持ちです。高知県立文学館では、十一月十六日(火)から来年一月十日(月・祝)まで「松谷みよ子の世界展」として、代表作の原稿や挿絵原画など展示します。文学館で、松谷さんの豊かな世界をお楽しみください。

(学芸課/永橋禎子)

このほか、全国の個人・関係機関の方々から図録など数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。



(事業課／岡崎由美子)

「かわいい!!」
ミュージウムショップにお見えになる
お客様の第一声です。ちいさいお子様は
もちろん、全ての女性はこのピーターの
いたずらっ子な表情のとりこになってし
まいます。

商品もぬいぐるみなどのほかに、マグ
カップやスプーン、ランチヨンマットと
日常的にお使いいただけるものが揃って
います。特にピーターたちの姿が楽しめ
るマグカップ(税込八四〇円)は人気が
あります。そして今回は当館オリジナル
商品として、絵本の世界をそのまま切り
取ったようなポストカード(税込一五〇円)
日常的に手軽にご利用いただけるシンプ
ルな絵柄のエコバッグ(税込三〇〇円)も
販売しております。

当館のみの限定販売です。数に限りが
ございますのでお早めにどうぞ。
ピーターラビット®展は九月十二日(日)
で終了となります。グッズ販売も展覧会
終了までとなっております。

●ミュージウムショップより

●大好評! おはなしキャラバン

高知県立文学館の「おはなしキャラバン」は、
企画展にそった作品や、「語りと紙芝居の会」
会長の市原麟一郎さんから寄贈いただいた
百点以上の紙芝居(地元で語り継がれた伝説や
むかしはなしを取材し描き上げた、手作りの
貴重なもの)を紹介し、土佐の文学にふれ、親
しむことを目的としてはじめてきました。

毎月第一土曜日午後二時からこどものぶ
んがく室で定期開催し、少人数ですが毎回案
しみにしてくださる方も増えてきました。
そして、学校や施設などを中心に依頼があれ
ば県内どこへでも出前公演に伺う「出張おは
なしキャラバン」は年間を通して随時活動し
ています。実績数ものびてきました。



(学芸課／門田貴美子)

特に夏は小学校の平和集会や各放課後児童
クラブを中心に一番ご要望が多く、文学館を
知っていただく絶好の機会です。カルチャー
サポーターのみなさ
んも特技を生かして
大活躍です。
「おはなしキャラバン」
についてはお気軽に
ご相談下さい。

●二十年度の公演回数…五九回のべ三七三三
●二十年度の公演回数…六六回のべ三六七一

高知県立文学館 第13回児童生徒文学作品朗読コンクール 朗読審査 & 記念講演会

入場無料一般公開

会場：文学館ホール

日時：平成22年 11月21日(日) 13時～

- ・審査(公開)：13時～14時20分
- ・記念講演会：14時30分～15時30分
- ・表彰式および講評：15時40分～16時



イ
ベ
ン
ト
紹
介

今年も八月下旬に県内三会場で小中学生を
対象とした朗読コンクール地区審査を行いました。

今年は、参加校・小学校二九校、中学校九校、参加者一一三名となり、百名を越
えるたくさんの方の応募がありました。

地区審査で選出された児童生徒の県審査は十一月二日(日)午後一時から開催、
絵本作家・川浦良枝先生による記念講演会も行います。審査と講演会は公開です
ので、盛り上がるコンクールをご覧ください。(学芸課／間城彩佳)

しばわんこのシリーズで大人気!

川浦良枝先生の記念講演会を開催します!!

11月21日(日)の県審査では、「しばわんこの和の
ころ」シリーズでおなじみの川浦良枝先生による
記念講演会を開催します!

書籍・グッズの販売や、講演会終了後のサイン会
(先着80名様)も予定しています。お楽しみに!



『しばわんこの和のころ』
川浦良枝著 白泉社刊



平成22年 2月1日(月) ～ 平成23年 1月10日(月) まで、
高知県立文学館と土佐山内家宝物資料館による**連携展示**となります。

企画展 案内

日本語版出版40周年記念

永遠のともだち、ピーターラビット®展

絵本を通じて「人間と自然と動物との共存」のメッセージを広げていった作者ビアトリクス・ポター™の業績とピーターラビットの魅力ある世界を多彩な資料でご紹介します。

7月9日(金)～9月12日(日) (※会期中 休館日なし・入館は午後4時半まで)

会場：高知県立文学館2F 常設展示室特設コーナー

観覧料：500円(常設展含) 開館時間：午前9時～午後5時



© F.W. & Co., 10

ピーターラビット展の紹介をしています！詳細は4ページをご覧ください。

吉井勇没後五十年展 ～吉井勇と四国路・新資料とともに～

歌人・吉井勇没後50年にあわせて、勇の耽美で情に満ちた歌風や、その人間味あふれる人物像に迫ります。

9月23日(木・祝)～11月7日(日) (※会期中 休館日なし・入館は午後4時半まで)

会場：高知県立文学館2F 常設展示室特設コーナー

観覧料：500円(常設展含) 開館時間：午前9時～午後5時



吉井勇没後50年展の紹介をしています！詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。

朗読フェスティバル 2011 出演者募集中！

高知県立文学館では、朗読を通して文学に親しんでいただこうと、平成23年2月19日(土)に「朗読フェスティバル2011」を開催いたします。「朗読フェスティバル2011」に朗読者として出演してみませんか？

●出演申込のしめきり●

11月30日(火)

募集要項に必要事項をご記入の上、文学館まで応募してください。



企画展
予告

松谷みよ子の世界展

平成22年11/16(火)～平成23年1/10(月・祝)

場所：常設展示室特設コーナー

観覧料：500円

〈モモちゃんとかねちゃん〉シリーズの作者、松谷みよ子さんが描いてきた豊かな世界を、貴重な資料でお楽しみください。

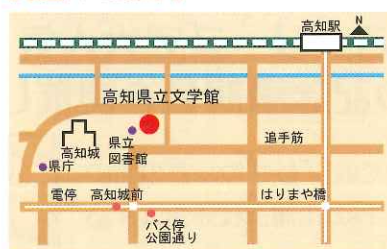


利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)
休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。
観覧料 一般350円
特別企画展のあるときは、料金が変わります。
20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。
駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、茶室「慶雲庵」
貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス(朝倉(高知大学前)行)「公園通り」下車 北へ徒歩5分
- JR高知駅下車徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 土佐電鉄停高知駅前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分



高知県立
文学館

〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857